

長野県の特別支援教育の現状と検討すべきキーワード（協議用補助シート）

（現状（◎） 検討キーワード（◆））

幼稚園・保育所

【保育士・加配保育士】

- ◆専門性

【幼保小連携】

- ◆小学校への引き継ぎ
- ◆個別の教育支援計画
- ◆就学相談

地域における連携

- ◆個別の教育支援計画の活用による連携の充実
- ◆福祉、保健、医療等との連携を促進する組織、体制
- ◆卒業後の居場所・支援体制

特別支援教育「デ」イーター連絡会

- ◎15郡市に何らかの連絡会はあるが、組織や運営の仕方は様々
- ◆地域ごとの研修機能や、連携推進機能の発揮

【地区代表者】

- ◆中核特コ研修終了後の有効な人材活用
- ◆更なる専門性向上

小・中学校

【通常の学級】

- ◆多様性を受け止める担任の意識
- ◆ユニバーサルな授業・学級経営
- ◆合理的配慮
- ◆周囲の子への指導

【通級指導教室】

- ◎LD等通級は26校28教室のみ（数の不足）
- ◎中学には未設置
- ◆専門性のある人材の確保
- ◆巡回等の仕組みの構築と運営

【特別支援学級】

- ◎自覚障学級が増加し、小学校全国2位、中学校1位
- ◆専門性
- ◆通常学級との交流及び共同学習の運用
- ◆校内における役割

【校内体制の構築】

- ◆管理職のマネジメント
- ◆学校解決力（チーム学校で対応できる組織づくり）

【支援員】

- ◆校内での活用方法
- ◆専門性

【特別支援教育コーディネーター】

- ◎兼務であり多忙
- ◆機能が発揮できる体制
- ◆専門性
- ◆中核コーディネーター

【校内教育支援委員会】

- ◎入学後、特別支援学級入級となる児童生徒が全国平均と比べて多い
- ◆特別支援学級判断の根拠
- ◆学びの場の見直し

高等学校

【通常の学級】

- ◎特別支援学級卒業生の約7割が高校へ進学
- ◆中・高連携（支援情報の伝達）
- ◆ユニバーサルな授業
- ◆入試、単位認定等における合理的配慮

【通級指導教室設置へ向けた検討】

- ◆専門性
- ◆人材育成
- ◆内容、指導法、仕組みの研究
- ◆生徒の心情面への配慮

特別支援学校

【施設・設備】

- ◎校舎、施設等の老朽化
- ◎児生増加による狭隘化
- ◎長野地区、中信地区再編整備の実施
- ◆特別支援学校の将来像

【重度化】

- ◎医療的ケア対象生の増加、重度化
- ◎自立活動介護支援員
- ◎自立活動担当教員増員
- ◆自立活動の更なる充実
- ◆外部専門家の活用

【増加・多様化】

- ◎特に高等部生徒の増加と多様化
- ◎増加している学校と減少している学校がある
- ◆多様な実態に対応した教育課程
- ◆分教室の位置づけ・あり方

【就労支援】

- ◎就職希望率の低迷
- ◎就労コーディネーター配置
- ◆就職希望生徒への支援
- ◆卒業後の支援

【センター的機能】

【教育相談担当教員】

- ◎各校1人であり、小中高等学校等からの多くの相談に対応
- ◆学級集団への支援や学校力を高める支援

【自立活動担当教員】

- ◎自覚障学級巡回支援を実施
- ◆通常学級、通級との連携

- ◆学校コンサルテーション
- ◆小中学校に在籍する22条の3に該当する児生への支援

市町村

【早期支援・療育・専門家チーム】

- ◆早期発見・早期支援の体制
- ◆専門家チームの確保
- ◆保育や就学相談への引き継ぎ

【部局間連携】

- ◆教育委員会・学校との早期からの連携

【生涯にわたる支援】

- ◆卒業後の生活への支援、引き継ぎ
- ◆家庭支援

市町村教育委員会

【市町村教育支援委員会】

- ◎判断件数の増加
- ◎結果には市町村による差がある
- ◆教育支援のプロセス・根拠
- ◆委員、調査員の専門性
- ◆地域による人材や専門機関の不足

【部局間連携】

- ◆保健師等との早期からの連携
- ◆保育園等との連携・引き継ぎ

【副次的学籍】

- ◎21市町村で実施
- ◆副次的学籍制度の普及、交流学习の充実

県教育委員会

【小・中・高対象研修】

- ◎教職員への研修を実施
- ・出前研修
- ・特別支援学級等新任担当者研修
- ・特コ養成研修
- ・特別支援学級進路指導研修
- ・校内教育支援研修
- ・高校特別支援教育研究会
- ・管理職研修
- ◆必要な人材育成策（通級担当、中核特コ、高校の教員等）

【人材育成・地域連携研修】

- ・中核特コ養成研修
- ・地区代表者会
- ・市町村教育支援研修
- ◆地域の連携組織の強化

【特別支援教育推進員】

- ◎4地区に1人ずつ配置し、市町村教育委員会等へ訪問、支援
- ◆市町村教育支援委員会等への丁寧な助言
- ◆校内教育支援委員会への助言

【協議会・委員会等】

- ・県特別支援教育連携協議会
- ・県教育支援委員会
- ・医療的ケア運営協議会

当面、取り組むべき課題

【課題】連続的で多様な学びの場の整備と通常の学級の充実

- ①通級を必要としている児童生徒への通級指導の実施。
- ②通常の学級への助言・支援の仕組みづくり

【課題】学校解決力の向上と

それを推進できる人材の育成

【課題】市町村教育支援委員会と

校内教育支援委員会の機能向上